

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

宮城県 亶理町

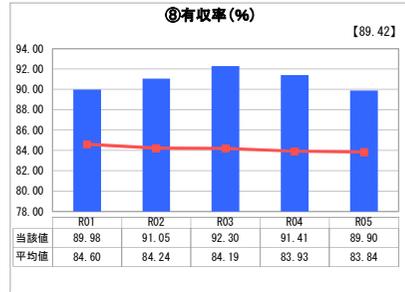
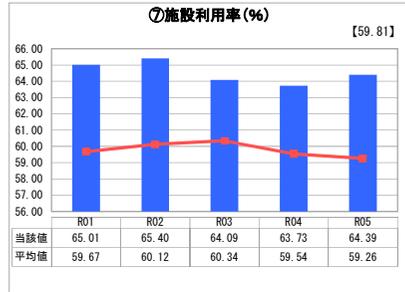
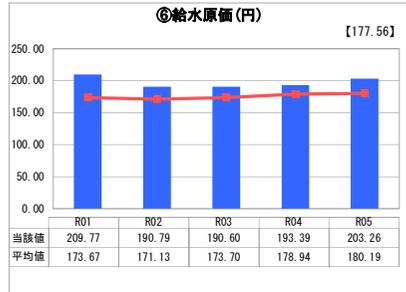
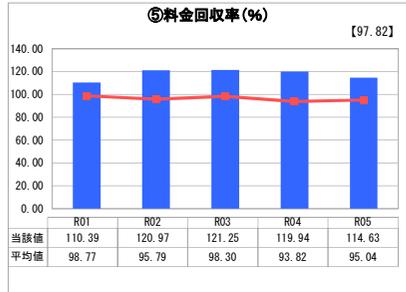
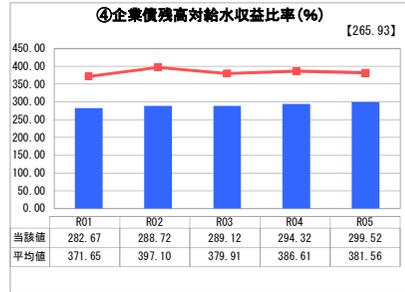
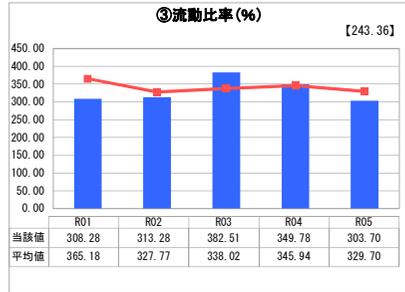
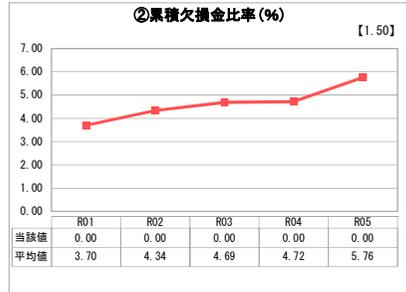
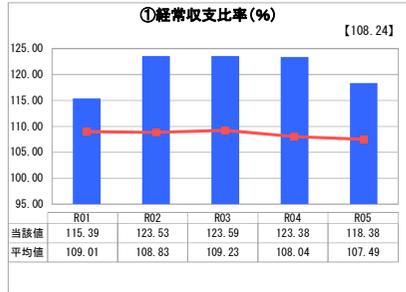
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	64.18	99.17	4,455	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
33,077	73.60	449.42
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
32,653	73.21	446.02

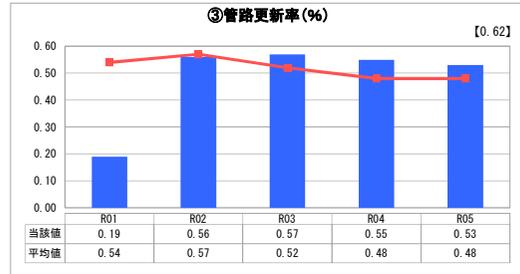
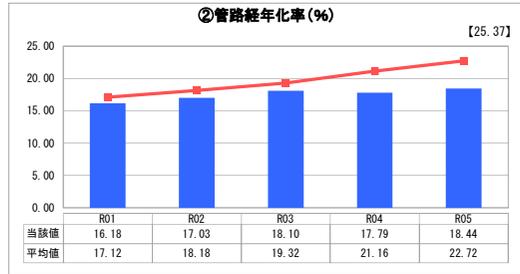
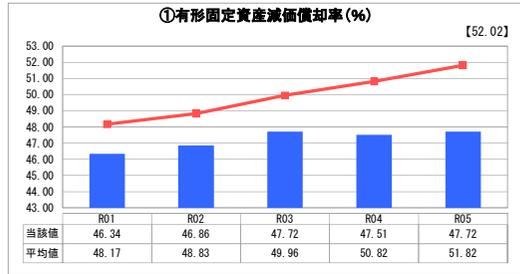
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①前年に比べ減少しているが、類似団体平均を上回っているため、全体的に経営の健全性や効率性を維持できていると考えられる。  
 ②流動比率については、前年度より減少し、類似団体平均も下回っているが、依然として100%を大きく超えている状況である。令和6年度より大きく施設の更新を実施するため、今後も減少すると考えられるが、適切な借入に努め、減少幅が大きくなりすぎないように注意する必要がある。  
 ③企業債残高対給水収益比率については、積極的に管路や施設の更新を実施している結果であり、全体的な経営状況を鑑みるにマイナスと捉える必要はないと考えられる。  
 ④給水原価は依然として類似団体平均を上回っているが、これは本町水道が9割を広域水道からの受水で随っており、今後とも広域水道と受水費について協議を重ね受水費が高騰しないようにしたい。また、広域水道に関わらない経費は、適切な支出をさらに心掛けた。  
 ⑤有収率については前年より減少したが、これは残留塩素濃度を保つ水質維持のためと原因が判明しており、現在是对策していることから、次年度以降は上昇すると考えられる。数値は依然として高い水準であるため、適切な維持管理に今後も努めていきたい。

### 2. 老朽化の状況について

①、②ともに類似団体と比較して低いため、今後ともこの状況を維持できるよう適切な維持管理、更新に努めたい。  
 ③管路更新率については、積極的に管路の更新を行っているため、類似団体平均を上回っている。今後も経営状況を鑑みながら、計画的に施設の更新を実施したい。

### 全体総括

本町水道事業は全体的に健全な状況であるといえる。しかし、今後は人口減少による給水収益の伸びは期待できないが、ライフラインであることから事業を止めることもできない。そのため、より適切な経費の支出に努めつつ、有収率の維持や災害に強い水道施設構築のため、経営状態を考慮して計画的な施設の更新を実施していきたい。